

【七・八月】お題「夏のもの」「最後」「星（スター）」

月間賞

最終回終わってしまいうラストプレー白球飛び込むレフトスタンド

第二席

梅雨はじめ雨降る季節ポツポツと傘さしければ空の音楽

第三席

後悔は明かりが消える瞬間にシャワーのようにあふれでてる

この季節少しの風がここちいい感じる風とゆれる風景

優良賞

寝れなくてさまよう視線ふと止めて満天の星見つけたり

夏の川光が差してすぎとおる川の魚のうろこも光る

夏の夜皆集まりこそこそと一本の棒に星が生まれる

高総体発散できない三年の努力はいつたどこへ行くのか

傘をとじ梅雨晴れの空を仰いでも悲しみだけが降り続くまま

佳作

キラキラとかがやく星に黒いそら二つがあつて夜空ができる

登り坂私の手には扇風機夏の暑さに汗ばむ額

一等星見つけたと思いいているとそれは飛行機点滅している

ギラギラと光る太陽にらみつけ今日も私は坂道をのぼる

気持ちだけ？就職目の前今そこに目指すべきと社会人の星

高校の最後の一年過ぎてゆく様子はまるで線香花火

せみたちは人知れず死ぬ美しく名残惜しいと全力で鳴く

冷えた部屋独り占めしてる幸せができなくなるのかみしめ楽しむ

突然の降り出す雨に二人ぬれ見上げる横顔胸がたかなる

入選

コロナのせいで遊べないと思っていたが僕はあまり外に出ない

夏の空雲一つなしきれいだね輝いてるみんなの願い

梅雨が来て光り輝く紫陽花は元気な女性を表している

夏の夜光り輝く存在が競って見えて笑みがこぼれる

蒸し暑い虫たちの声途切れてはそよ風が吹く風鈴の声

背を向けて旅立つものに風鈴を離れていても音は一緒だよ

星光るみんなで探す流れ星空に浮かんだおねがい事

流れ星空を見上げて待ち望むその一筋に想いをのせる

夏休みコロナのせいで短いな今年の夏が恋しいこの夏

夏まつり夜空に広がる花火より隣で笑う君に目がいく

夜空を見上げ伏さしぶりに星を見るこのひとときは自分を無にする

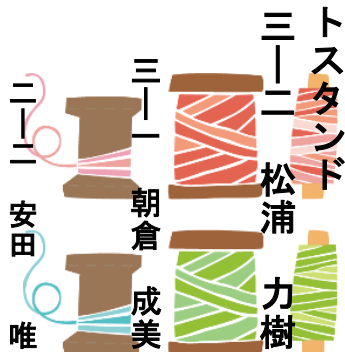
夏空の下で見ている星たちの広い舞台で踊り始める

夜の空きらっと光る流れ星願いを込めて明日へエール

時経てもかがやき続ける星空はあなたの約束おもいださせる

夜の空大きく光り散ってゆく五秒の花火夏の思い出

砂浜に残る足跡踏み重ね海の塩水足につかる



一―三 青柳 優耶

二―二 安田 唯

三―一 朝倉 成美

三―二 松浦 力樹

三―二 松浦 力樹

一―一 濱田 春菜

一―一 松田 真於

一―二 伊藤 良平

三―二 古内 虹

三―三 千葉みずき

一―一 齋藤 陸

一―一 三浦 明音

一―二 荒木 舞優

一―三 佐々木陽菜

二―一 釜石 柊那

三―一 岩崎 晴斗

三―二 菅原 滯

三―三 濱田 優菜

一―二 熊谷 快夢

一―二 高嶋 心愛

二―一 佐藤 愛結

二―二 鈴木 仁菜

二―三 廣瀬 亜美

二―三 廣瀬 亜美

三―一 大場 北斗

三―一 大場 美優

三―二 芳賀 翔

三―二 菅原 滯

三―三 沖田 希望

三―三 石川 希羅

三―三 児玉 夏実

三―三 濱田 優菜

三―三 三塚 菜々

三―三 横山 堇

国語科からのアドバイス… 一年生、「岩高短歌」には慣れてきましたか？ 二・三年生歌は、入選などの数の多さはさすがですね。 「月間賞」の松浦さんの「白球飛び込むレフトスタンド」は、音や声をあえて詠まずに想像させることで、逆に大歓声が聞こえるようです。 あえて詠まずに詠む人の想像に委ねるといふ工夫はさすがです。 みなさんのさらなる工夫に期待しています。(直)